

沖縄県がん診療連携協議会 小児・AYA部会
 がん患者さんがお子様をもつことを応援する医療
 ～妊孕性温存療法とがん治療後の生殖医療～WG
 議事次第

日時：令和2年 7月15日(水)午後4時～5時

場所：WEB開催

報告事項	資料
1. 第1回 WG 議事要旨(6月10日)	資料1
2. 令和2年度第1回 小児・AYA部会 議事要旨 (6月18日)	資料2
3. その他	
協議事項	
1. 拠点病院および診療病院において、対象患者すべてに、 生殖機能の温存に関する説明を共用文書を用いて行うにはどうしたらよいか	資料3-1 資料3-2 資料3-3
2. がんに関わる全ての医師に対する院内研修会の開催について	資料4
3. 琉大病院の『妊孕性温存療法についての専門外来』へ積極的に紹介するにはどうしたらよいか	資料5
4. 症例検討会について	資料なし
5. 「妊孕性温存療法」に対する医療補助について	資料なし
6. 次回WG開催日程について 8月12日(水)または8月26日(水) 時間は午後4時から5時予定	資料なし
7. その他	

令和2年度 第1回がん患者さんがお子様をもつことを応援する医療
「妊孕性温存療法」と「がん治療後の生殖医療」WG
議事要旨

日 時：令和2年6月10日（水） 16：00～17：00

場 所：「Zoom」を用いたWEB会議

出席者：7名

野里栄治(北部地区医師会病院 医局長・外科外来医長)、大畑尚子(県立中部病院 産婦人科副部長)、池宮城梢(那覇市立病院 産婦人科部長)、中上弘茂(県立八重山病院 産婦人科部長)、石川裕子(県立宮古病院 産婦人科医長)、銘苺桂子(琉大病院 周産母子センター教授)、増田昌人(琉大病院がんセンター長)

陪席者：1名

石川千穂(がんセンター事務)

*冒頭 銘苺委員より「妊孕性温存療法」について説明があった

【報告事項】

1. 担当医 WG 名簿

各病院担当医よりそれぞれ自己紹介が行われた。

2. 「令和2年度第1回沖縄県がん診療連携協議会」の報告

増田委員より、「令和2年度第1回沖縄県がん診療連携協議会」での決議事項が報告された。

【協議事項】

1. 拠点病院および診療病院において、対象患者すべてに、生殖機能の温存に関する説明を共用文書を用いて行うにはどうしたらよいか。

銘苺委員より資料3-1に基づき、「がん患者さんのための妊孕性温存療法に関する説明書」について説明があり、各病院でも共用文書をカルテに取り込んでもらうことは可能かの確認があり、承認された。周知については医局会や院内メールで行われる事となった。

各病院から琉大への紹介は、がん治療医から担当医へ相談・担当医から琉大生殖グループに紹介することとなった。

○北部地区医師会病院 産婦人科医がいない等の事情から、野里委員を介すことなく状況を把握している治療担当医から直接琉大へ連絡

○中部病院 血液に関しては直接琉大へ、それ以外のがんは大畑先生を介して琉大へ連絡

○那覇市立・宮古病院・八重山病院 それぞれの病院の担当医から琉大へ連絡

○連絡先は琉大生殖グループメンバーへ

*上記のように決議したが、後日下記のように銘苺委員よりメールにて各委員へ変更提案

があった。

●紹介状に加えて、当科がほしい情報について簡単な「情報提供書」の書式を銘苅委員の方で作成するので、そちらの書式も同時に各病院の電子カルテに入れてもらい、癌治療医が「妊孕性温存療法説明書」と「情報提供書」を同時に使用できるようにご対応して頂く。

●担当医を通じての紹介ではなく、これまで通りシエントを通して、「がんと生殖医療外来」へ予約を入れてもらうことで紹介とする。

●各病院担当医から電話連絡は必要なし。必要時は当科から癌治療医へ電話連絡。

2. がんに関わる全ての医師に対する院内研修会の開催について

銘苅委員が各病院へ赴き、7月～9月に開催する。その為の日程調整をがんセンターの方で行うこととなった。

3. 琉大病院の『妊孕性温存療法についての専門外来』へ積極的に紹介するにはどうしたらよいか。

資料 5-2 に基づき、琉大病院ホームページと、うちなーがんねっと「がんじゅう」に『妊孕性温存療法についての専門外来』について掲載があること、産婦人科の外来について説明があった。

4. 症例検討会について

少し先になるが症例検討 WEB 開催も含めて検討することとなった。

5. 「妊孕性温存療法」に対する医療補助について

次回、協議されることとなった。

6. 次回 WG 開催日程について

令和2年7月15日(水) 16時から17時開催と決定した。

令和 2 年度 第 1 回沖縄県がん診療連携協議会 小児・AYA 部会 議事要旨

日 時：令和 2 年 6 月 18 日（木） 16：00～17：00

場 所：WEB 会議

構 成 員：16 名

出 席 者：11 名

百名伸之(琉大病院小児科)、銘苺桂子(琉大病院産婦人科)、森島聡子(琉大病院第二内科)、島袋優子(琉大病院看護部)、太田守克・(代理 宮城班長 沖縄県教育庁健体育課)、當銘保則(琉大病院整形外科)、佐久川夏実(南部医療センター・こども医療センターCL S)、大城一郁(南部医療センター・こども医療センター血液・腫瘍内科)、金城敦子(がんの子どもを守る会 沖縄支部)、友利敏博(森川特別支援学校)、増田昌人 (琉大病院がんセンター)

欠 席：5 名

朝倉義崇(中部病院血液・腫瘍内科)、比嘉猛(南部医療センター・こども医療センター小児科)、伊良波史朗(南部医療センター・こども医療センター放射線科)、仲里可奈理 (沖縄県保健医療部健康長寿課)、浜田聡(琉大病院小児科)、

陪 席 者：2 名

石川 千穂(がんセンター事務)

浦崎 美由貴(がんセンター事務)

【報告事項】

1. 小児・AYA 部会 委員一覧

百名委員より、資料 1 に基づき委員の説明があった。

2. 令和元年第 4 回小児・AYA 部会 議事要旨(3 月 26 日)

百名委員より、資料 2 に基づき、説明があった。

【協議事項】

1. 部会委員の追加について

百名委員より、資料 1 に基づき、小児病棟看護師長の島袋委員が新委員として就任について説明され、承認された。

2 がん患者さんがお子様をもつことを応援する医療

「妊孕性温存療法」と「がん治療後の生殖医療」について

(1) 協議会の報告

増田委員より、資料 3 に基づき、「令和 2 年度第 1 回沖縄県がん診療連携協議会」での決議事項が報告された。

(2)各拠点病院窓口担当医の選任状況について

増田委員より、資料4に基づき、各拠点病院窓口担当医の選任状況の説明があった。

(3)担当医による会議について

銘苅委員より、資料5に基づき担当医による会議で話し合われた内容が報告された。

(4)沖縄県内の各医療機関での出張研修会について

銘苅委員より、拠点病院において、医師やメディカルスタッフ向けの妊孕性温存療法研修会が7月から9月に行われる旨、説明があった。またそれとは別に、血液内科、乳がん、脳外科などの研究会等を対象として妊孕性温存療法研修会を銘苅委員の方で行う案が出され、承認された。研修会について次回も引き続き協議されることとなった。

(5)今年度の院内医療者向け研修会の企画について

次回、協議されることとなった。

(6)沖縄県共通の妊孕性温存の説明文について

銘苅委員より、各拠点病院の妊孕性温存療法担当医による会議の中で、妊孕性温存療法の周知に関して、下記のように協議・決定された旨説明があった。

○それぞれの病院の電子カルテに県内共通の説明文書をいれて頂き、すべての男性患者および0～50歳の女性へ妊孕性温存療法についての説明がされること

○共通紹介文を同じく電子カルテに入れて頂き、がん治療担当医から、琉大への紹介が積極的に、スムーズ行える環境を整えていくようになった

○紹介後も、フィードバックとして症例検討会も開催される

3.AYAがんの集約化について

増田委員より、資料8に基づき、院内がん登録集計書(小児・AYA世代のがん登録数とその推移)について説明があった。

また、増田委員より、進学や就職、結婚等、社会生活の観点からの集約化について意見が求められた。百名委員より、がん種も様々なので年齢によつての集約化は難しいだろうとの意見があった。次回、引き続き協議される。

4.病院・支援学校・在籍校との連携について

百名委員より、資料9に基づき、小児・AYA世代のがん患者さんの学校生活の中での問題点・今後の課題が説明された。友利委員より、特別支援教育コーディネーター(施設によっては教育相談係)の存在が紹介された。コーディネーターは相談の内容によって、ピアサポーターや福祉サービス等、支援に関係する担当者へつなぐことができるので、相談がある場合、コーディネーターへ支援をお願いする流れが適切ではないかと提案があった。まずは学校の方へ声掛

け・情報共有し、支援の必要性を仰って頂き、そこから森川とも連携して頂ければ、との意見があった。百名委員から、システムはあるようなので連携していくことが課題。情報をきちんと患者さんへ伝え活用できればとの発言があった。増田委員より、外来の際や入院時に、復学後もサポートできるシステムがあることを紹介できるパンフレットなどはあるのか確認があり、琉大でも南部医療センター・こどもセンターでも無いので、支援案内の為のパンフレットを作成することが決議した。

8. 今後の開催日程について

次回以降開催は下記のようになった

第2回：9月17日(第3木曜)

第3回：12月17日(第3木曜)

第4回：令和3年3月11日(第2木曜)

時間：全日程、午後4時から5時開催

場所：琉大病院がんセンター（新型コロナウイルスの状況によってはWEB開催）

がん患者さんのための にんようせいおんぞんりょうほう 妊孕性温存療法 に関する説明書

～がん克服後に子供をもつことを考える～

いりょう 医療の進歩によって、がんを克服できることが多くなってきました。この説明書では、がんを乗り越えて後に子供をもてるようにするにはどのような方法があるのか、がん治療前に知っておきたいことについて説明します。

1. にんようせい 妊孕性とは

「にんようせい 妊孕性」とは、「にんしん 妊娠のしやすさ」を指します。

男女とも、かれい 加齢よって妊娠しにくくなります。こ

れを にんようせい 妊孕性が低下する、といいます。男性は緩

やかに低下しますが、女性は 35 歳ころから急激に低下します。



2. がん治療による にんようせい 妊孕性 への影響

がん治療には、手術、抗がん剤治療 (かがくりょうほう 化学療法)、ほうしゃせんちりょう 放射線治療、ぞうけつかんさいぼういしょく 造血幹細胞移植

などがあります。治療により将来、子供をもつことができなくなる可能性があります

す。これを「にんようせい 妊孕性の しょうじつ 消失」といいます。

3. 妊孕性温存療法について知る

がん治療によって妊孕性に影響が予想される場合に、事前に卵子や精子、卵巣を凍

結保存しておくことを「にんようせいおんぞんりょうほう 妊孕性温存療法」といいます。あなたが受ける予定のが

ん治療が、妊孕性に影響するのか、がん克服後に子供をもてるようにはどのような妊孕性温存療法が適切なのか、相談することが大切です。

4. 「がんと生殖医療カウンセリング」へご紹介します。

琉球大学病院の産婦人科では、妊孕性温存療法についての専門外来を開設しています。あなたが受ける予定のがん治療が、妊孕性に影響するのか、がん克服後に子供をもてるようにはどのような妊孕性温存療法が適切なのか、がん治療の主治医と連携をとりながら検討していきます。

5. 納得した治療をうけるために

がん告知と同時に抗がん剤治療や放射線治療、あるいは手術などの治療を目前にし、頭の中が真っ白になり、将来子どもをもつことなど考える余裕はないかもしれません。しかしながら、がんは克服できる^{ちゅ}治療する時代となり、がん克服後に子供をもつことも可能となってきました。がん治療前に妊孕性温存療法について知っていた^き、そのことを知った上で、ご自分の判断で納得した治療をうけていただきたい^いと思います。

_____ 年 月 日

_____ 病院 科

説明者 _____ 印

同席者 _____ 印

がんと生殖カウンセリング連携シート

患者氏名 _____ 年齢 _____ 歳

疾患名 _____ 進行期 _____

組織型 _____

・予後(生命予後、再発リスク;抽象表現可) _____

・予後の告知した相手: _____ 本人 _____ 配偶者 _____ キーパーソン (_____)

・告知した内容: _____ すべて説明した _____ 予後については説明
未 _____

・現在までの治療経過(手術、使用された抗がん剤名と投与量、放射線療法については照射
部位と照射量を記載ください) _____

・今後予定される治療(手術、抗がん剤名、投与量、放射線治療、ホルモン療法などについて
記載ください) _____

—
・治療開始予定時期(現在予定されている開始時
期) _____

・治療開始遅延許容期間(妊孕性温存療法を行う場合でも、がん治療を開始しなければいけ
ない時期など) _____

・妊孕性温存・妊娠について

主治医から見た妊孕性温存の推奨程度: _____ 推奨 _____ 消極的 _____ どちらとも言えない _____

がん治療後の妊娠時の問題点 _____



連絡先：琉球大学病院 産科婦人科 生殖内分泌グループ

〒 903-0215 沖縄県西原町字上原 207 番地

Tel 098-895-1177

沖縄県内の各医療機関での出張研修会について

	病院	日時
1	北部地区医師会病院	7月16日(木) 17:30～
2	県立中部病院	9月7日(火) 17:15～
3	那覇市立病院	8月17日(月) 18:00～
4	県立宮古病院	8月25日(火) 17:00～
5	県立八重山病院	9月15日(火) 17:15～

他医療機関(沖縄県院内がん登録集計報告書2017年 参照)

	病院	日時
1	中頭病院	9月30日(水)にて調整中
2	中部徳洲会病院	未定
3	国立病院機構沖縄病院	未定
4	ハートライフ病院	未定
5	浦添総合病院	未定
6	大浜第一病院	未定
7	沖縄赤十字病院	未定
8	沖縄県立南部医療センター・ 子ども医療センター	未定
9	沖縄協同病院	未定
10	南部徳洲会病院	未定
11	豊見城中央病院	未定

	がん種	日時
	乳房	未定
	脳・中枢神経系	未定
	血液腫瘍	未定
	小児がん	未定

講師:周産母子センター教授 銘苅桂子先生

対象:医師・メディカルスタッフ

主催:各病院

共催:沖縄県がん診療連携協議会 小児・AYA部会

後援:琉球大学病院がんセンター

琉大病院の『妊孕性温存療法についての専門外来』へ積極的に紹介するにはどうしたらよいか

- 紹介状に加えて、当科がほしい情報について簡単な「情報提供書」の書式を銘苅委員の方で作成するので、そちらの書式も同時に各病院の電子カルテに入れてもらい、癌治療医が「妊孕性温存療法説明書」と「情報提供書」を同時に使用できるようにご対応して頂く。
- 担当医を通じての紹介ではなく、これまで通りシエントを通して、「がんと生殖医療外来」へ予約を入れてもらうことで紹介とする。
- 各病院担当医から電話連絡は必要なし。必要時は当科から癌治療医へ電話連絡。